

# 2022 年度 学校関係者評価報告書

学校法人仙台北学園

仙台リハビリテーション専門学校

2023/03/11

---

## 2022 年度 学校関係者評価委員会 参加者名簿 議事次第

仙台リハビリテーション専門学校  
学校関係者評価委員会

### 1. 開催日時、場所

日時：2023 年 3 月 11 日（土）13：00～14：00

場所：TKP 仙台西口ビジネスセンター 3 階 ミーティングルーム 3A

### 2. 出席委員

学校関係者評価委員会

- ・渡辺好孝（宮城県理学療法士会 会長）
- ・大貫操（宮城県作業療法士会 副会長）
- ・渡部達也（宮城県作業療法士会 理事）
- ・阿部順（宮城県立がんセンター 理学療法士）
- ・谷口英太郎（らそうむ内科・リハビリテーション 院長） WEB 参加

教職員

- ・大本研二（理事長）
- ・渡辺信英（学校長）
- ・小畑陽平（副校長）
- ・櫻井直人（作業療法学科 学科長）、吉田翔太、橋本円（作業療法学科 教員）
- ・吉田望（理学療法学科 学科長）、熊谷拓未、高村真司（理学療法学科 教員）
- ・根本峰人（事務長）

### 3. 次第

- 1) 開始の挨拶
- 2) 委員紹介（自己紹介形式）
- 3) 2022 年度自己評価の報告／意見交換
- 4) 終了の挨拶、解散

### 【意見交換・質疑応答】

- ・学校の退学者が少ないことは強みになるが、学校ではセールスポイントとしてどのような言葉として伝えていくか検討が必要。教える側と教わる側の互いの承認が重要であり、それをうまく表現すればより強みになるのではないか。（渡邊好孝）
  - 今後数値で表していくか等について、改めて検討していく。（小畑陽平）
  - 教員から学生主体へ変更してきているが、就職を含めたアピールを今後もしていかなければいけない。（渡辺信英）
- ・3年間の推移での就職率について、合格率が高い予測の中、なぜ就職活動が遅れているのか。
  - 国家試験終了後に就職活動を行う学生が増えていること、全国的に就職場所が減少していることが主として挙げられる。学生は病院志向がまだ強いため、老健等の認知が広まればよいのではないかと考える（小畑陽平）
  - 入学当初からの自己分析をする等、就職支援を強化していく必要があるのではないか。（大貫操）
- ・学生の多様性に対応しすぎると教員の負担が大きいのではないか。顧客（学生）満足度も大事だが職員満足度を上げていくことも必要なのではないか。（渡部達也）
  - 学生からは聴取しているが、教職員から聴取していないため今後検討していく。（小畑陽平）
- ・実習学年であっても就職の方向性に迷っている学生を見かける。他校では就職課もあるがどのような形で支援しているのか。（阿部順）
  - 就職セミナーで手法については伝えている。就職の方向性についての支援では、入学時等早い段階から支援していく必要があると改めて感じるため、今後検討していく。（吉田望）
- ・自分の技術が通じないと自信がない所から就職先が選べないのではないか。働いた後に困った際、相談できるシステムの導入をしていければ改善できるのではないか。（谷口英太郎）
  - 学生は教育システムを気にする学生も多い。働いた後にどのように学習する環境があるか等も指導していく必要があると感じるため、今後検討していく。（小畑陽平）

#### その他

- ・学生は学校にいて先がみえなくなることもあるため、PDCAではなくDCAPと考える。まずはやってみるということはこの学校の強みではないか。今は学生と教員フラットの関係になっている中で、社会性の教育をしていければよいのではないか。（渡邊好孝）
- ・文科省から学校の一番のポイントは聞かれた際には教員を大切にしていると答えている。教員は18歳の何もわからない学生を成長させ社会に出すという課題に対し、毎年100人程度出していくこと自体がやりがいになる。しかし、教員の身分としては大学のほうができているが専門学校ではまだのため、今後努力していきたい。（渡辺信英）

### 【次回検討事項】

- ・学校の強みについて、どのように表現していくか。
- ・職員満足度の聴取についての検討。
- ・就職活動・就職後支援についてどのように対策していくか。

## 1. 学校の教育目標

### ■ 教育理念

#### ○ 本学における教育の基本理念

本学園における教育は、命の尊厳と豊かな人間性を基本とする。これに基づき、新たな時代が求める専門的な知識と技術と意思の修得を進めるとともに、地域社会において医療・福祉・健康の分野で活躍し得る職業人を育成する。

#### ○ アドミッションポリシー

本学園の理念を理解すると共に、本学園で学ぼうとする意欲に溢れ、本学園で資格を取得したいと強く望む人の入学を期待すべく、競合校のどこよりも早期に、その意思確認ができる人、言わば目的意識を高くもつ人を希望する。

#### ○ ディプロマ・ポリシー

- ▶ 入学前よりリハビリテーション医学への興味、関心が高く今後習得が想定される「知識・技術」を把握する事に努める事が出来る。
- ▶ 医療、福祉、健康の分野において、主体的に世代を超えた多様な人々と協同して切磋琢磨しながら学ぶ態度が身に着いている。
- ▶ 常に学び、正確な知識を探究する事が出来る。また、基礎的な知識を応用的に発展させ、変遷・多様化する社会ニーズにおいて柔軟且つ迅速な働きかけが出来る思考力・判断力・表現力が培われている。
- ▶ 卒業後も後輩育成等を通して地域社会の未来のために貢献でき、生涯にわたり学び続ける人を支援する。

#### ○ カリキュラムポリシー

- ▶ 学園入学決定後より入学前教育を通して3年間の学びのイメージを図る。また、職能理解を深めながら自らの学習計画を立案する。
- ▶ 学習形態は一斉講義のみならず、世代（学年）を越えた能動的な学習（アクティブラーニング）によって主体的な学びを促し、必要とされる知識・技術の獲得を図る。また、確かな技術を習得させ、現場実習に臨ませる基準としてOSCEを実施する。
- ▶ 1年次より学内の実習に留まらず、学外での多彩な現場実習を通して医療人としての責任、他職種との協調性を身に着ける。また現場実習に留まらず学内外の行事（サービ斯拉ーニング）によって優れた医療職としての人間性を培う。
- ▶ 卒業生の教育的な参画を促し、充実した実習、国家試験の対策を提供する。

## 2.本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

昨年度の学校関係者評価委員会で下記のご指摘事項を頂戴した。

- ▶ コロナ禍が齎した日々の学習、演習、臨床実習への影響はどのようなものがあったか
- ▶ コロナ禍による求人数減に伴う学生の就職状況について
- ▶ 退学率と留年者数の動向について
- ▶ 留年生の授業料の扱いはどのようにしているのか
- ▶ 未来を見据えたPT・OTの教育の在り方について（キャリアデザインについて）

これを受け、以下の重点目標を本年度はP D C Aサイクルで行った。

### 1.学校

- ①教職員が意欲的に働ける環境の整備
- ②学生の学習環境（オンライン環境）を整備
- ③積極的な情報公開

### 2.教員

- ①自己の教授能力の向上のためFDに参加、企業等との教育連携
- ②学生支援のための学生との効果的なコミュニケーションをとる
- ③学生の国家資格取得のための知識・技術の指導は当然であるが、社会性や適性についての指導能力を向上する

### 3.学生

- ①学生の目標を教職員一体となって実現させる
- ②学生一人ひとりの個性を尊重して支援する。さらに、個に応じた学びの支援を徹底する
- ③社会人に向かう学生の能力を向上させる
- ④学問重視型（教育の講義など知識伝達型）と問題解決型（能動的学習・アクティブ・ラーニング）の調和

### 4.地域支援活動

- ①地域における様々な活動への教員・学生参加
- ②活動を通して本校の教育活動のPRを行う
- ③高専連携教育の仕組み作り

### 3.自己評価結果

評価期間：2022 年 4 月 1 日より 2023 年 3 月 31 日まで

評 価：A…優れている B…標準的である C…今後の課題とする D…改善を要する

①教育理念・目標		昨年度	評価	
評価項目	1	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか。	A	A
	2	学校における職業教育その他の教育指導等の特色はあるか。	A	A
	3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか。	A	A
	4	上1~3は学生・保護者に周知させているか。	A	A
	5	上1は業界のニーズに合致し、方向付けられた内容か。	B	B
現状	1	理念・目的・育成人材像を定め、常に学生・教職員に意識させている。		
	2	定期的に業界団体、関連業種の特別講演を実施している。合わせて意見交換や学生への教育指導も実施している。		
	3	地域包括ケアシステムの構築・地域共生社会の実現にむけて、リハ専門職のニーズが高まっている背景を受け、実際に理学療法学科 72 名、作業療法学科 27 名の入学者を受け入れた。今後も社会経済のニーズに注視し将来構想を検討する。		
	4	学生・保護者には学生便覧によりこれらの周知を図っている。特に本校の教育理念については入学前教育などにおいて保護者への周知を図りご理解を得るようにしている。また、ホームページへの公開もしている。		
	5	アドミッション・カリキュラム・ディプロマの3ポリシーを明文化し、学校としての考え、学科としての考えをさらに明確にした。		
課題と改善策	次年度はこの3つのポリシーをホームページやパンフレット、リーフレットにて告知し、世間とのニーズのマッチングを図っていく。変動する社会経済ニーズを的確に捉える必要があるため、就職施設などの変化を敏感に察知し、教育理念に反映させていく。			

②学校運営		昨年度	評価	
評価項目	1	目的に沿った運営方針が策定されているか。	B	B
	2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか。	B	B
	3	運営方針は教職員への周知徹底はなされているか。	B	B
	4	運営組織や意思決定機能は、規程等により明確化され、有効に機能しているか。	B	B
	5	人事・給与に関する規程等は整備されているか。	B	B
	6	教務・財務等の意思決定システムは整備されているか。	B	B
	7	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか。	A	A
	8	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	A	A
	9	情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	B	B
現状	1	地域社会・地域医療・地域福祉に貢献しうる有能な人材養成の目的の実現に向け学校運営を行っている。		
	2	毎年事業計画は策定されている。また、年度末には事業報告書として報告している。		

	3	理事会や運営会議などで話し合われた運営方針等の周知に課題があったため、固定の参加者に加えて、一般教員の会議参加を促し、経営的視点の共有に努めた。
	4	理事会で審議・議決された短・中・長期の事業計画・運営方針に基づき、役職者等で構成させる運営会議の意思決定機能について改善が必要である。特に教職員の組織化や役割分担化を明確にしていくことが課題である。
	5	人事について、昇進・給与等の就業規則は整備されているが、規定変更など教職員への周知が不十分。また、職員採用に関して雇用契約が不明確であり、労務規定に関する説明等の改善が必要。
	6	役員、教職員で定期的に会議を実施し、意思決定及び周知をしている。また、稟議書等により適切に決済をうけ、随時意思決定の必要なものについては、メール等にてリアルタイムでの相談・決定ができるように運営している。
	7	関係法令の順守については、学科運営者により随時管理されている。社会規範の遵守を教職員に随時適切に指示・訓示を図り、学生へのコンプライアンス指導にもつなげている。
	8	ホームページや SNS（ツイッター・YouTube）で随時公開している。ホームページにてカリキュラム等の教育基本情報も公開している。また、附帯事業についても公開している。
	9	教員が共有できる学生管理・情報共有ネットワークを導入し業務の効率化を図っている。
	課題と改善策	労務管理などに課題がある。雇用に関わる点について教職員への説明を今後十分に行っていく必要がある。

③教育活動		昨年度	評価	
評価項目	1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。	A	A
	2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に応じた教育到達レベルや学習時間の確保はされているか。	A	A
	3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか。	A	A
	4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発等が実施されているか。	A	A
	5	関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか。	B	A
	6	関連分野における実践的な職業教育（実技・実習等）が体系的に位置づけられているか。	A	A
	7	授業評価の実施・評価体制はあるか。	A	A
	8	職業教育等に対する外部関係者からの評価を取り入れているか。	B	A
	9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	A	A
	10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	A	A
	11	人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか。	A	A
	12	関連分野における業界等との連携において優れた教員を確保する等マネジメントが行われているか	A	A
	13	関連分野における先端的な知識・技術を修得するための研修や教員の指導力育成等の資質向上のための取組が行われているか。	A	A
	14	職員の能力開発のための研修等が行われているか。	B	B
現状	1	教育の基本理念と教育方針は策定されており、毎年、P D C A サイクルにおいて検討、改善を実施している。		
	2	本年は各修業年限で修得すべき教育到達レベルについて策定を行った。また進級判断の妥当性についても検討し、次年度の学則変更に至った。指定規則で定められた時間以外にも国家試験対策や適性教育などの教育指導を実施している。		
	3	各学科とも教養科目・専門科目・実技・実習など指定規則に則り、順次的・体系的にも編成されている。次年度はカリキュラムマップの作成に発展させたい。 また本学では入学前教育として10月の入試後から計5回の先行教育を行っており、専門教育へ		

		のソフトランディングを目指しており、一定の効果が見られている。
4		卒後のキャリア獲得も視野に入れ、授業以外で働くビジョンについての特別講義などを外部からの支援を受けて展開している。また定期的に開催する就職ガイダンス等の中で、ビジネスマナーなどの社会人教育を実践している。
5		業界団体に非常勤講師を依頼し、より具体的な教育を実施している。また、本年度より教育課程編成委員会を開催し、徐々に非常勤講師との意見交換の機会は増えている。
6		実践的な職業教育は、各学科のカリキュラムの中で臨床実習として初年次から体系的に位置づけられている。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、一部学内演習に切り替えたが、学内演習においても連携施設のご協力により、より実践的なオンライン演習の展開を行った。
7		学生による授業評価は全ての科目で実施し、集計を行っている。授業評価の結果は組織や教育体制の改善に反映しており、必要に応じて教員へフィードバックされている。
8		第三者評価委員にて外部有識者からの意見を取り入れている。また今年度はリハビリテーション教育評価機構の審査該当年であったが、コロナの影響で次年度延期となっており、外部評価が未実施であり、次年度審査を受ける予定である。
9		成績評価・単位認定・進級・卒業判定等の基準は学則に定められている。今年度は進級に関して学則の変更をおこなった。
10		資格取得の指導体制が年次毎のカリキュラムに体系化されている。
11		教員は、学歴・専門職としての経験、講義の能力等が優れた者、さらに実習施設との連携により現場経験の豊富な者を確保している。
12		各専門協会で理事や委員を務める教員を採用し、コンソーシアム活動に積極的に参加し、様々な連携により業界団体と連携が図られている。
13		各種講習会等に積極的に参加している。また、定期的に現場研修を行い資質向上に努めている。また教員の指導力向上のため、教員講習会にも計画的に順次参加を促している。
14		各協会、コンソーシアムに参加し、教職員間の情報交換や研修会への参加を促している。校内における能力開発研修の実施はできていない。
課題と改善策		業界団体や臨床の先生を非常勤講師として招いているが、より外部との連携強化が必要と考えられる。そのため、本年度より教育課程編成委員会を開催し、非常勤講師として教育参画だけではなく、臨床実習等について意見交換を行った。今後も引き続き教員の資質向上に努める。また、教員が教育・研究・管理・社会貢献などを達成するために、必要な専門的能力を保持し、さらに改善するための組織的な方策や活動としてFD委員会の設置をしていく。

④学修成果			昨年度	評価
評価項目	1	就職率の向上が図られているか。	A	A
	2	資格取得率の向上が図られているか。	A	A
	3	退学率の低減が図られているか。	A	A
	4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。	B	B
	5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	B	B
現状	1	3年次教育の中で就職活動に関するセミナーを複数回実施し、円滑に就職活動が行えるよう学生指導をしている。また、関連業界の方や臨床の先生を招き「職業人教育」をテーマとした特別講演を実施している。就職試験についての面接や小論文などの個別指導にも力を入れている。		
	2	学内では国家試験全員合格をめざし、学習教材、校内・全国模擬試験などを含め様々な対策を講じて国家試験合格率のアップにつなげている。特に成績下位者に対しては、個別指導など集中的に取り組んでいる。外部取組として全国リハビリテーション教育協会に参加し、参加校同士で意見交換を実施したり、国家試験の特別講義を実施した。		
	3	入学前教育より、新入生の心理的不安を減少し、理学療法・作業療法を目指す学習意欲の維持に努めている。また定期的な学生面談を実施しつつ退学に繋がりにくい学習面での課題や、友人関係の課題の早期発見に努め、継続して学習ができるよう支援を実施している。年々退学者数は減少しており、今年度は現時点で1名である。この学生は入学式後一度も登校が出来なかった。		
	4	社会的な活躍及び評価の把握だけではなく、学園主催で卒業教育の一環として定期的に技能実		



	習会などを開催し、資質向上に努めたいと考えているが、今年度はコロナの影響もあり開催が困難であった。
5	上記同様の理由により、学校教育への反映までは至っていない。
課題と改善策	多様化する学生個人のメンタル的な部分も含め、精神的支援の手法についての教員の能力向上が求められている。また、学生指導計画書を導入し、個別的な課題の解決に努めている。尚、講義や定期的な面談だけではないそれ以外の活動（ボランティア活動など）でも学生との関わりを強くしていく。

⑤学生支援		昨年度	評価	
評価項目	1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか。	A	A
	2	学生相談に関する体制は整備されているか。	A	A
	3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。	A	A
	4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	A	A
	5	課外活動に対する支援体制は整備されているか。	A	A
	6	学生の生活環境への支援は行われているか。	A	A
	7	保護者と適切に連携しているか。	A	A
	8	卒業生への支援体制はあるか。	B	B
	9	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。	B	B
	10	高校・高等専門学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか。	A	A
	11	関連分野における業界との連携による卒後の再教育プログラム等を行っているか。	B	B
現状	1	就職に関する支援体制は最終学年担当教員と就職担当教員が中心となり、計画的に支援を実施している。		
	2	主に担任が相談窓口の入口になるが、直接学科長や副校長・校長への相談ルートがあることを学生に告知している。定期的な面談の実施のみではなく、常に教員室は開かれており学生が相談しやすいよう個室も設けている。		
	3	公的補助金や各種就学資金制度や奨学金制度などの案内を入学前より実施している。高等教育段階の教育費負担軽減新制度の対象校となっている。		
	4	毎年、学園で健康診断を実施し、学生の健康管理と把握を行っている。また新型コロナワクチンの接種を推奨しその管理を行っている。		
	5	今年度は新型コロナの感染症予防を徹底したうえで、ボウリング大会、伝承館研修旅行、海洋リハビリテーション研修など課外活動を行うことができた。企画から運営まで教員が支援を行っている。		
	6	主要駅からの無料スクールバスを運行し、登校支援を行っている。また学生寮も確保し住環境の支援も行っている。また新入生に対しては、生活環境の説明などを入学前教育などにおいて伝えている。		
	7	入学前教育時により保護者会を開催、ならびに入学式後に教育説明会を実施し当校の教育理念の理解を促している。また特別に支援が必要な学生（成績不良や精神の不安定さを抱える学生）については随時保護者に連絡を取り、教育が円滑に行えるよう連携を図っている。		
	8	学園主催で卒業教育の一環として定期的に技能実習会などを開催している。また卒業生に対しての転職支援などを随時実施しているが、同窓会活動への支援などさらなる発展が必要である。		
	9	社会人に対しては、既修単位の認定を積極的に行うなど、学習面の環境を整え、現在までの経験が配慮されるようにしている。		
	10	高校への出前授業やガイダンスへの参加により、職業理解を得る取り組みを行っている。今年度はオンラインでの参加を積極的に行った。また次年度より高専連携教育の一環として、本校が高校の授業を担当する予定であり、現在その準備を行っている。		

	11	卒後の臨床能力向上の為、指導者講習会などを開催しその中で卒後の理学療法教育を支援している。
課題と改善策	卒業生への支援について現在も課題が残る。技能研修等は開催されているが引き続き卒業教育については充実化を図りたい。今後も同窓会との協力、協働をしておける研修会・意見交換会の開催など計画し、卒業生の悩みごとの解消の場を設置していく。	

⑥教育環境			昨年度	評価
評価項目	1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	B	B
	2	学内外の実習施設、海外研修先について十分な教育体制を整備しているか。	B	B
	3	防災に対する体制は整備されているか。	B	B
現状	1	理学療法学科の定員増に伴い、第2校舎の新設を含め、必要な施設設備を整えた。		
	2	臨床実習施設については各領域の施設確保に努めている。また国内の研修については海洋リハビリテーション研修（沖縄）を計画しており、幅の広い知見が得られる教育体制を整備している。		
	3	防災訓練を年1回実施している。しかし教育時間外に発生した災害に対する体制の整備が必要である。		
課題と改善策	地震や豪雨などの防災マニュアルの見直し及び連絡体制の整備が急務である。また校内の備蓄品の整備に課題がある。緊急時の衛生用品や非常飲食品などの整備を早急に進める。			

⑦学生の受入れ			昨年度	評価
評価項目	1	高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取り組みを行っているか。	A	A
	2	学生募集活動は適正に行われているか。	A	A
	3	学生募集活動において、資格取得・就職状況等の状況は正確に伝えられているか。	A	A
	4	学納金は妥当な額か。	A	A
現状	1	高校を訪問し進路指導担当教員との連携作りに力を入れている。また各種進路ガイダンスには積極的に参加し、職業理解や入試の状況についての情報提供を実施している。		
	2	オープンキャンパスや入試説明会などを通し、学生募集を適切に実施している。また本校の求める学生を選択できる入試制度を導入している。		
	3	国家試験合格率などの教育成果はオープンキャンパスや学校説明会などで説明している。		
	4	入学制度に合わせた減免制度を実施している。		
課題と改善策	入試制度の見直しを毎年実施している。今年度は指定校の指定について検討を実施したが、今後も継続して基準等の条件を検討していく必要がある。社会人選抜の在り方を含め、職業適性を正確に把握できる入試のあり方を検討し適性試験を導入している。今後も引き続き当校のポリシーの浸透を促し、募集活動に繋げていきたい。			

⑧財務			昨年度	評価
評価項目	1	中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか。	A	A
	2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。	A	A
	3	財務について会計監査が適正に行われているか。	A	A
	4	財務情報公開の体制整備はできているか。	A	A
現状	1	常任理事会、理事会、運営会議において中長期的な教育目標と事業計画を行い、予算、収支計画との適合性も図っている。		

	2	予算の編成も中長期的に行い財務基盤は安定している
	3	私立学校法及び寄付行為に基づき適正に監査を行っている
	4	学園ホームページにて財務情報を公開している。
課題と改善策	入試制度、カリキュラム、個別的な教育内容の充実によって退学・休学・留年による学納金収入減を防止していく。また、本年度は留年生の学費について見直しを行った。	

⑨法令の遵守			昨年度	評価
評価項目	1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。	A	A
	2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。	A	A
	3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか。	A	A
	4	自己評価結果を公開しているか。	A	A
現状	1	学校教育法、専修学校設置基準法およびその関連法令、就業規則、学則などを遵守し、法律・規則等に基づいた学校運営を行っている。		
	2	個人情報保護は規定に基づき適切に行っている。		
	3	自己評価を定期的の実施し、PDCAサイクルに合わせた確認と改善に努めている。		
	4	ホームページにて公開している。		
課題と改善策	情報公開のニーズに合わせて自己評価だけではなく、第三者評価の公開もする。			

⑩社会貢献・地域貢献			昨年度	評価
評価項目	1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	A	A
	2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	B	A
	3	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練含む）の受託等を積極的に実施しているか。	A	A
現状	1	今年度は近隣小学校にて「障がい者体験」の授業を実施した。本校の車いす等の備品を使用し、小学生に体験をして頂き大変好評を得た。		
	2	昨年度までは感染対策の観点から校外活動の中止等により実施する事が困難であったが、仙台市主催のボッチャの大会など学生、教職員がボランティア活動に参画できた。		
	3	地域住民を対象とした健康教室に講師を定期的に派遣している。地域包括支援センターとの連携が強固となり、学生の教育の場としても活用させて頂いている。また各種団体から依頼を受けた講師活動には積極的に協力している。		
課題と改善策	コロナの影響で様々な社会貢献活動に制約が生じていたが徐々に学生・教職員によるボランティア活動が再開できるようになっている。本年度は一般社団法人仙台市障害者スポーツ協会主催のボッチャの大会運営に携わった。来年度は東北・みやぎ復興マラソンに学校全体で参画を検討している。			